

2019年度のシーズン開幕！！

ハーフタイム 52号は内容盛り沢山にてお届けします！！

== ハーフ タイム ==
東京 F A 審判委員会
第 5 2 号 (2019 年 4 月)



1. S2級更新講習会報告(2018年12月23日開催)
2. サッカー1級審判員昇級挨拶
3. サッカー2級審判員昇級挨拶
4. フットサル1級審判員昇級挨拶
5. フットサル2級審判員昇級挨拶
6. 女子観戦研修会報告(2019年1月20日開催)
7. JFA 全日本 U-12 サッカー選手権大会指導者研修会報告(2018年12月24-29日開催)

(ラグビー審判員の梶原晃久氏)

■2019年資格更新講習会に参加して(サッカー2級審判員:関根 司氏)

年の瀬12月23日に、更新講習会に参加いたしました。冒頭、競技規則テストが行われ、「無事に年を越せるか、否か」の緊張の一瞬が訪れる訳ですが、本年の講習会で私が一番印象に残っているのは、この後行われた日本ラグビーフットボール協会・A1レフェリー梶原氏による講話でした。サッカーのトップレフェリーの講話を拝聴することも大変参考になるお話ばかりですが、別競技視点からお話を聞いたのは新しい刺激も多く非常に良かったと感じております。

私が講話で特に印象に残っている点は、「仕事と両立する」という点です。

梶原氏は「仕事を言い訳にしない」「環境を整える」がポイントと仰っていましたが、その背景にはご自身の「自立」が基軸となっているように感じました。審判員の中には仕事と両立することに課題感を感じていらっしゃる方も多いのではないかと思います。非常に具体性もあり参考となるお話でした。今年ラグビーW杯も開催されます。是非観戦に行きたいと思っておりますし、それだけではなく、他競技視点も取り入れた、視野の広い審判員として成長してまいります。



(ラグビー審判員梶原氏の講演の様子)

■2018年度サッカー昇級者挨拶



サッカー1級審判員昇級(御厨 貴文氏)

この度、1級審判員に昇級いたしました御厨貴文と申します。これも皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。本来ならば直接のご挨拶をするべきところ、誌面にて失礼いたします。今回、1級昇級を仰せつかりまして、責任の重大さに身の引き締まる思いです。今の私は、まだまだ吸収すべき事も多く未熟ですが、努力を惜みず日々精進していく覚悟でございます。今後は審判員として、元Jリーグの選手としての自覚を持ち微力ながら審判界また、スポーツ界やサッカー界発展のために力を尽くしたいと思います。まだまだ若輩者ではございますが、今後も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

サッカー2級審判員昇級(吹山 一朗太氏)

2018年度秋にS2級に昇級させていただきました、吹山一朗太です。「大人になってもサッカーに関わり続ける」。これは私の小学校の頃からの夢でもあり、目標でもありました。今、こうして「審判員」という立場で大好きなサッカーに真剣に向き合うことができることを嬉しく思います。小・中・高のチームメイト、コーチや監督、顧問の先生、審判を始めてからはトレセンで指導して下さる指導部の方々、一緒にチームを組む審判員の方々、運営スタッフの方々、そして選手の方々。サッカーを通して多くの人に出会い、支えられてきたことを改めて実感しています。感謝の心をもって、今後も審判活動に励んで参ります。今後とも宜しくお願いいたします。

サッカー2級審判員昇級(山口 幸汰氏)

この度、2018年度秋に昇級いたしました山口幸汰です。現役選手としてプレーしていた高校生の頃、なんとなくやってみようと思い帯同でついた副審が楽しくて、興味をもち審判活動を始めました。好きなサッカーに新しいかたちで携わることができ、また昇級の機会をいただいたこと、大変感謝しております。

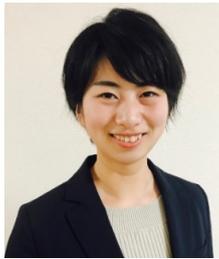
サッカーを通じて多くの人と関わり、また支えてもらいながら活動できました。これまでお世話になった方々に少しでも恩を返せるよう、審判員として飛躍できるよう精進してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



(写真左が山口氏、右が吹山氏)

■2018年度フットサル昇級者挨拶

フットサル1級審判員昇級（齋藤 香菜氏）



この度、フットサル1級審判員に昇級いたしました齋藤香菜と申します。プレーヤーは就職と同時に引退しましたが、小学生の頃からサッカー・フットサルでお世話になった全ての方々に恩返しするために競技に関わり続けたいと思っていました。審判員としてこうして昇級できたことをとても嬉しく思います。これまで支えてくれた家族、審判仲間、インストラクターの方々、今までのチームメイトや監督、審判活動をご理解し応援して下さる職場の方々との出会いは、私の大きな財産となっています。

フットサル2級審判員昇級（野田 匡一氏）



この度10月に行われました昇級審査を経て、フットサル2級審判員になりました。まずは私を推薦頂いたフットサル部会の皆様に御礼申し上げます。フットサルは10年以上前に趣味で始めて、始めた頃はせめてルールくらいは知っておこうと気軽に受講した審判講習会から考えると、全く想像も出来ない結果として2級審判員となりましたが、これも審判委員会の方々を始めフットサルで関わっていただいた方々のサポートがあつての昇級だとおもいます。これに満足する事無く今後も活動を行います。今後ともよろしくお願ひします。

■女子観戦研修会に参加して（サッカー4級審判員：中村 直子氏）

私は地元の少年サッカーチームのお手伝いで審判資格を取得しました。女子サポートプログラムに参加して、みなさんの真剣に取り組む姿に、毎回、感動し、触発されています。

2019年1月20日 西が丘フィールドで行われた、観戦研修会では、試合開始前の様子から、見る事ができ、審判員の凛々しい姿に、宝塚みたいと思ってしまうました。大学女子の決勝戦という事もあり、試合自体も見応えがありましたが、早い試合展開の際の主審の動き、激しいチャージやファウルに対する、主審、副審の対応など、大変勉強になりました。

また、上級の方々が簡単な解説など交えていただけたので、より理解を深められました。会議室に移動しての分析会では、フィールド型のマットを使い、立ち位置や、自分ならどうするかなどの意見交換をして、有意義な時間になりました。これからも、審判員の質の向上を目指して、研鑽していきたいと思ひます。



（観戦後の座学研修の様子）

■JFA 全日本U12サッカー選手権大会指導者研修会に参加して（サッカー3級インストラクター：小梢 正道氏）

JFA第42回全日本U-12サッカー選手権大会に地域審判インストラクターとして参加し、12月24日からの5泊6日を鹿児島で過ごしました。審判団は全国の各地域から選考された32名のユース審判員、18名の地域審判インストラクター、そしてJFAインストラクターという構成でした。

審判員は「大会を成功させる」、地域審判インストラクターは「審判員を支える」をテーマに、審判団がひとつのチームとなって大会に臨みました。大会を成功させるために審判員、地域審判インストラクターともに現地入り前からの研修と準備、そして大会直前・期間中にも絶え間なく研修を積み重ねていきました。

私たち地域審判インストラクターの役割は、短期間で審判員を伸ばすためのコーチ役でした。審判員4人に対して、地域審判インストラクター2~3人が1グループとなり、一緒に行動をして、その中で指導を行っていきました。初めのうちは、普段の慣れた形でのアセスメントやフィードバックを用いた指導をしていましたが、私たちに求められている指導とは「教える」、「伝える」というよりかは、「気付かせる」「考えさせる」ことに重きを置かれたものでした。試合の中で特徴的なこと、極端に言えば1つに絞り、どうしたらよいのか簡単に答えを言うのではなく、審判員自らが課題を発見・整理して、次につなげていけるように導くことが私たちコーチ役の腕の見せ所でした。

ユース審判員を始め地域・JFAの指導者の方々をつながることで、新たな「気付き」があり大変勉強になりました。「気付かせる」役割ではあったのですが、自分自身が「気付かされた」時にはハッとさせられ、このような投げかけ方をすれば審判員にインパクトを与え、記憶に残すことができるのだと考えさせられました。

今回の経験を今後の審判員育成につなげていきたいと思ひます。この度は参加させていただき、ありがとうございました。



（ユース審判員の研修の様子）